

ザ・ウォールⅡ
フラットウォールⅡ
NPウォール
ガーディアンⅡ
ハーデンロック
間知ブロック
テラグリーン
グリーンエコ
小口止ブロック
基礎ブロック
eベース
織帯用ボックスカルバート
ジョイントボックスカルバート
FX側溝
FX可変側溝
大型FX可変側溝
FR横断側溝
IGU
RV-OTU
エプロンブロック
U形側溝
L形側溝
雨水樹
歩車道境界ブロック
地先境界ブロック
縁石
ベンチフリューム
大型フリューム
SRフェンス
自在R連続基礎
RS基礎
積ガード
フィールドボックス
組立樹
外フラット式集水樹
HC床版
家のねっこ工法
ガーデンウォール

環境保全型積みブロック（ポーラス間知）

テラグリーン 生物親和性コンクリートブロック



周辺景観との調和（多自然川づくりへの対応）

1 自然に近いブロックのデザイン

- ブロックの目地付近の模様をランダムに出入りさせることで直線感をなくし、人工的な感じを和らげます。
- 左右非対称な1個石模様にする事で適度なばらつきを持たせ、自然に近いブロックのデザインになります。

2 明度の低下

- ポーラスコンクリートや表面の微妙な出入りにより、陰影を創出し明度を低下します。
- ブロックの目地を深め模様にする事で、コケ類や藻類が付着しやすくなり、それら植物が早期に明度低下することが期待できます。

3 テクスチャー〈肌理(きめ)〉の工夫

- 石模様とポーラスコンクリート素材により自然に近い(肌理の粗い) テクスチャーを有しています。
- 普通コンクリートに比べテクスチャーの優れた7号ポーラスコンクリートにすることにより、光を反射しにくくし、自然景観になじみやすくなります。
- 谷積とすることで隣り合うブロックに高低差をつけることにより、平面的になりがちな模様に変化を持たせています。

● 製品明度証明

明度証明	平均明度	証明書番号
テラグリーン	3.0	全協明証第 1375 号

● 製品テクスチャー証明

テクスチャー証明	輝度の標準偏差(平均)	証明書番号
テラグリーン	47	全協テ証第 0136 号



間知ブロックと比較して明度を低下することができます。

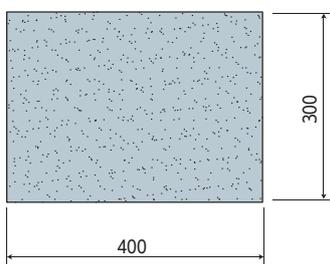
生態系支援護岸ブロック (テラグリーン)

- ザ・ウォールⅡ
- フラットウォールⅡ
- NPウォール
- ガーディアンⅡ
- ハーデンロック
- 間知ブロック
- テラグリーン**
- グリーンエコ
- 小口止ブロック
- 基礎ブロック
- eベース
- 縦溝用ボックスカルバート
- ジョイントボックスカルバート
- FX側溝
- FX可変側溝
- 大型FX可変側溝
- FR横断側溝
- IGU
- RV-OTU
- エプロンブロック
- U形側溝
- L形側溝
- 雨水樹
- 歩車道境界ブロック
- 地先境界ブロック
- 縁石
- ベンチフリューム
- 大型フリューム
- SRフェンス
- 自在R連続基礎
- RS基礎
- 積ガード
- フィールドボックス
- 組立樹
- 外フラット式集水樹
- HC床版
- 家のねっこ工法
- ガーデンウォール

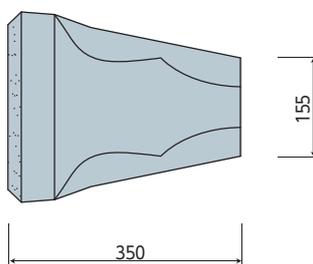
基本型



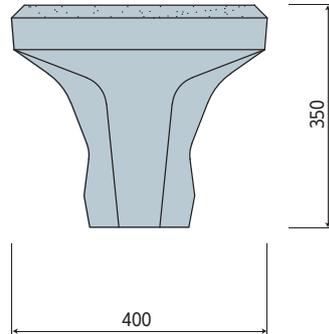
正面図



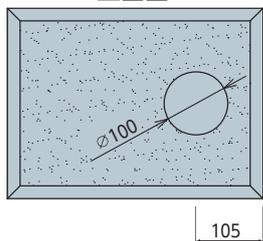
側面図



平面図



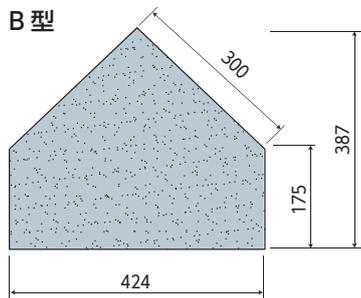
水抜き型
正面図



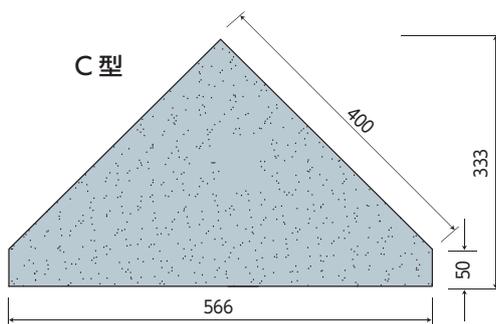
標準体積	0.01848m ³
標準質量	42.2kg
1m ² あたり数量	8.3個
1m ² あたり胴込量	0.19m ³

その他
B型・C型
隅石

B型

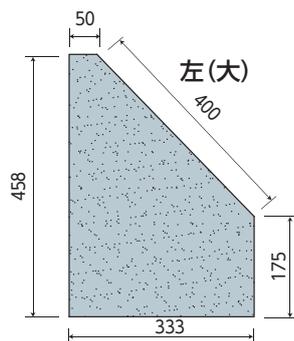


C型

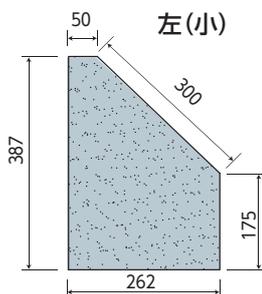


隅石

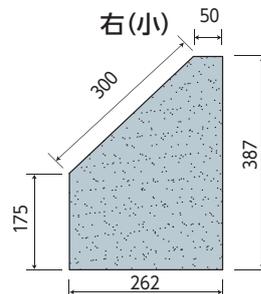
左(大)



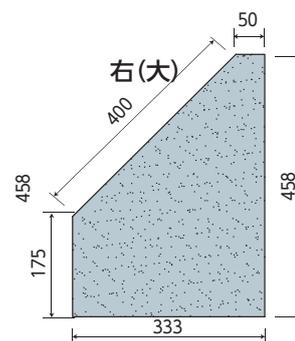
左(小)



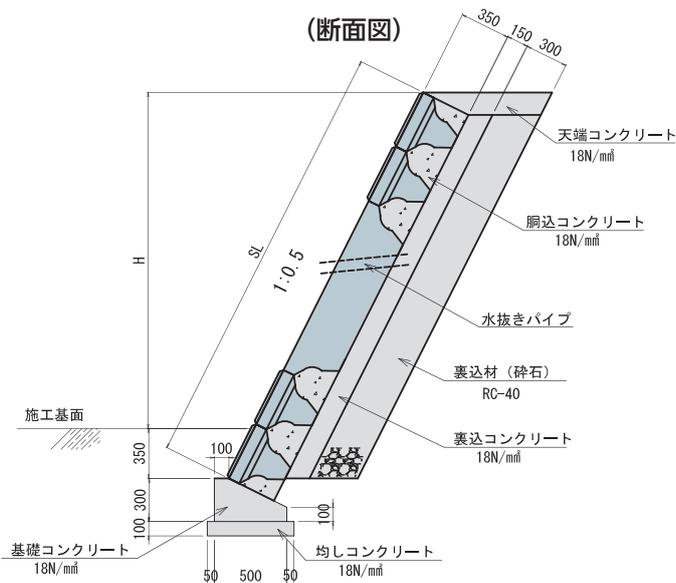
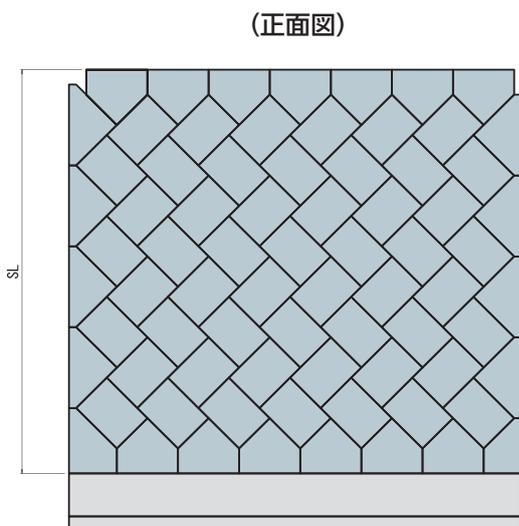
右(小)



右(大)



標準施工図 (谷積)



ブロック積み擁壁の断面検討について

護岸の力学設計法より、練タイプは「道路土工指針」に準じ、検討するとのことから以下の資料を抜粋。
 (道路土工 擁壁工指針 (社)日本道路協会 H24 年度版 (H24年7月改定版))

● 最大直高とのり面勾配の関係 (控長35cm以上)

直高 (m)		~1.5	1.5~3.0	3.0~5.0	5.0~7.0
のり面勾配	盛土	1 : 0.3	1 : 0.4	1 : 0.5	—
	切土	1 : 0.3	1 : 0.3	1 : 0.4	1 : 0.5
裏込めコンクリート厚		5cm	10cm	15cm	20cm

盛土部におけるブロック積擁壁の裏込材は、擁壁ののり面勾配を 1 : N とした場合に、地山と接する面の斜面が 1 : (N - 0.1) となるよう設置する。また上端における裏込材の厚みは 30cm を基本とし、背面の土砂が良好な場合は 20cm 程度としてもよい。切土部におけるブロック積擁壁の裏込材は等厚に設置してよい。前面に水を考慮する場合には裏込材は支持地盤程度まで設置することとする。

● 最大直高と裏込コンクリート厚

勾配		1 : 0.3	1 : 0.4	1 : 0.5
盛土	裏込コンクリート厚	5cm	10cm	15cm
	最大直高	1.5m	3.0m	5.0m
切土	裏込コンクリート厚	10cm	15cm	20cm
	最大直高	3.0m	5.0m	7.0m

● 国土交通省河川局防災課 事務連絡 平成 23 年 3 月 30 日付
 災害復旧事業・改良復旧事業における河川工場のコンクリートブロック積には、原則として裏込コンクリートを入れないものとする。*1
 ただし、兼用護岸については道路土木-擁壁工指針を参考とする。
 *1 「平成 12 年 9 月国土交通省制定土木工事標準設計第 2 巻」に準ずる